# 令和3年度　長野県田川高等学校　学校評価表

学校番号74　長野県田川高等学校

| | |
|---|---|
| **建学の精神** | 『質実剛健、尚学共助の校風と知徳体の調和のとれた学びの場を目指す』(昭和57年11月1日) |
| **校　　是** | 誠実　意欲　創造 |

| 教育目標 | 重点目標 |
|---|---|
| 1. 真理を探究し、平和を尊び、自主的に行動する力を身につける。 | 1. 学力の充実を図り、日々基礎・基本を重視して思考・判断・創造力を育み、生徒の希望する進路実現を目指す。 |
| | 2. 生徒一人ひとりが意欲を持って諸活動に取り組み、達成感を得ることのできる学校づくりを目指す。 |
| 2. 身心を錬磨し、不屈の精神を養う。 | 3. PTA(保護者)・地域(同窓会)・教員との三者の連携、協働により生徒を育み、開かれた学校づくりを目指す。 |
| 3. 勉学に励み、品性を陶冶する。 | 4. すべての生徒と職員が誠実な心を持って規範意識を高め、いじめ・体罰を許さない、安心安全な学校を創造する。 |

| 評価項目 | 評価の観点 | 評価(%)※ A | B | C | D | 現状・経過 | 成果・課題 | 改善策・向上策 | 分掌一覧 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習の充実と進路実現(重点目標 1) | 教育課程・シラバスに沿って、基礎基本の定着を図る授業展開ができたか。 | 27% | 55% | 18% | 0% | コロナ禍による生徒登校禁止期間があったが、本校ではオンラインによる授業展開を全職員で行い、授業を行わない期間を極力減らすことができた。年度当初は不慣れも多々あったが、職員のICT研修を何度も行ったことで、平時と変わらない質の授業展開が行えたのではないかと思われる。 | 休校期間の影響をほぼ受けることなく授業を展開できたと思われる。一方で基礎基本の定着については、授業外の時間を使わないと難しいなかで、補習などを計画通り行えなかったことが挙げられる。 | 生徒の中には基礎基本が定着しておらず、普段の授業でも前向きに取り組めず苦慮している者もいる。そのような生徒を把握し、早い時期から個別の取り出しなど行い、粘り強く取り組んでいく必要がある。 | ○進路指導係/図書視聴覚係/教育課程委員会/学習指導委員会/各学年 |
| | 生徒に学ぶ理由を考えさせ、興味を持たせることによって、意欲を喚起し、学習習慣を身につける指導を行うことができたか。 | 18% | 59% | 23% | 0% | 本年度も昨年度と同様コロナ禍にあって、登校して授業を受けるといった当たり前のことができない期間があった。生徒も教員も学校での授業だけでなくリモートでの授業の実施について再考する機会となった。 | 昨年度から全クラスに液晶テレビ(プロジェクター)が設置され、ネット環境(wi-fi)が入り整った。積極的に活用する教員も多いが、全ての教員が使いこなせているわけではない。また、生徒がもつタブレットの授業活用についても同様に考える必要がある。さらなる有効利用のしかたについて研究していく必要性がある。 | コロナ禍の昨年度から、電子黒板の設置とネット環境が整い、本校でもGoogleMeet、GoogleClassroom、ロイロノートといったアプリの活用を積極的に活用している。来年度は全員一台タブレットを持つようになるため、利用頻度が高まれば慣れてくると思う。 | |
| | 進路実現のための適切な情報提供と、個々の生徒の希望に添った進路指導ができたか。 | 23% | 64% | 14% | 0% | 進路通信の発行は1通にとどまったが、模試や諸検査、医療・福祉体験の都度、通知・案内を配布し参加を促した。また、学年ごと個別面談を実施して、生徒の進路研究を促した。外部講師による講演会を行ったり、模擬面接を実施したりする中で個々の進路実現に向けて必要な情報を提供した。 | 3年生は進学・就職とも概ね希望する進路実現ができた。一方で、終盤まで希望進路が定まらず、指導が長引いた生徒もいた。希望進路実現に向けて、より早い時期から意識付けをし、生徒の適性を見極めた進路指導が十分にできたかどうかの検証・反省・改善も必要である。 | ・総合的探究の時間・LHRの時間の活用法の検討。3年間を見通してのキャリア教育計画の見直し。<br>・学年を跨いだ連携・情報共有をさらに強化し、効果が期待できる指導を共有する。 | |
| | キャリア教育を推進し、生徒が希望進路を実現できるように、進路意識の向上を図ることができたか。 | 9% | 73% | 18% | 0% | 進路講演会や外部模試、就業体験の実施、事業所見学への参加、志望理由書・小論文指導、面接指導、個別面談など、多岐にわたる生徒の進路希望に応じて指導することができた。一部、コロナ禍のため計画通りに実施できない企画もあった。 | 個人差はあるが、全体的に進路意識の向上は見られた。進路希望が多岐に渡るため、1年次より様々な可能性を示し、生徒が将来の自分の姿を描けるようこれまで以上に計画的に指導していく必要がある。 | ・就業体験など継続して安定的に実施していけるような体制の確立。<br>・総合的探究の時間の活用、進路研究・地元産業・地元企業の研究課題設定。 | |
| 自主活動の活性化(重点目標 2) | 蒼穹祭・クラスマッチなどの学校行事を充実したものにできたか。 | 18% | 41% | 32% | 9% | 文化祭では、地域連携や文実委員による企画作りなど例年にない新しい企画を取り入れようとしたが、新型コロナウイルスの影響で計画通りの開催ができなかった。密にならないよう心がけ、蒼穹祭も3年のみ会場、1・2年はクラスと会場をつなぐリモート形式で行った。 | 行事のほとんどが直前で企画の変更が余儀なくされ、十分に準備ができなかった。リモート形式を使いながら行い、安全に運営することができた。蒼穹祭の文化部の発表では生とリモート両方行い、多くの人にみてもらえる機会をつくることができた。 | 文化祭は一昨年度までのような形で行えない中であるが、地域との関係や密を避けながらでの発表などできることはたくさんある。塩尻市との交流や校内祭のあり方を変え、新しい文化祭を作り上げたい。また来年度は多くの生徒が参加できる企画を考えたい。クラスマッチは、服装などのルール作りの課題もある。 | ○生徒会係/保健・整美係/クラブ顧問会/各学年 |
| | 生徒会活動・クラブ活動を活性化させ、田川高校全体の活力を高めることができたか。 | 27% | 55% | 14% | 5% | 新型コロナウイルスの影響も有り、計画通りの活動は行えなかったが、その中でもできることはないかを考え、計画し、行事を運営することはできた。クラブ活動やボランティアなど様々なことが制限された一方、少ないながらも子どもしおりなどと地域との関わりを保てた。 | 学校行事を中心にPC等の情報機器を使い、リモートや資料作成などが行うことができた。本年度はボランティアへの参加がほとんどできなかったため、来年度はボランティアを含め地域交流に努めたい。 | 生徒会の生徒を含めた生徒が様々な経験ができるよう塩尻市や松本市にある様々な団体・企業との関わりを設けたい。校内だけでなく、地域や長野県の中で必要とされる生徒会とは何かを考える場を提供し、生徒発信の新たな取り組みを後押ししていきたい。 | |
| | 清掃活動にきちんと取り組むよう指導できたか。 | 23% | 45% | 32% | 0% | 本年度も昨年度同様コロナウイルスの為、委員会活動が制限されたため、難しい部分もあった。ただ生徒会の生徒や各クラブ生徒を中心に学校の清掃を行うことができた。 | 大掃除を複数回設け、特に行事前、長期休業前には外掃除も行った。長期休業前の大掃除では、各クラスの呼びかけ、下十分な箇所もあるが集中して掃除に取り組むことができた。 | 大掃除は2ヶ月に一度の設定とし、重点箇所を具体的に提案して、効果的な清掃活動を行う。清掃分担場所の精査をする。(毎日やる必要のない場所を決めることも必要と思われる。)ゴミ分別の徹底、ごみ袋の減化に努めたい。 | |
| 開かれた学校づくり(重点目標 3) | PTA・同窓会と連携して、魅力のある、地域から信頼される学校づくりを進めることができたか。 | 14% | 50% | 36% | 0% | コロナ禍により活動を中止せざるを得ない状況が続いた。特に新しい地区割での地区PTA懇談会、蒼穹祭でのPTA喫茶および巡視、秋の登校指導は2年連続の中止となり、運営ノウハウや活動自体の引継ぎ・継承が困難になりつつある。秋の講演会と環境整備事業は感染対策を講じながら何とか実施することができた。 | PTA講演会では、昨年の企画に再度取り組み、松本落語協会の協力を得て落語鑑賞会「田川寄席」を実施できた。伝統芸能の魅力を生で味わう貴重な機会を提供でき有意義なものとなった。次年度に向け企画内容の精選とコロナ禍ではあるが保護者の参加者増が課題である。 | コロナ禍により"集まる"ことが困難であるからこそ、魅力ある企画を提案してPTA活動の意義を再認識してもらうとともに、"ウィズコロナ"時代におけるPTA活動のあり方を模索しながら、ICT機器の積極的活用を検討する。 | ○教務係/PTA・同窓会係 |
| | webページ・各種通信・公開授業・中学生体験入学など様々な機会をとらえ、田川高校を発信することができたか。 | 41% | 55% | 0% | 5% | 昨年度、コロナ禍で秋期に1度しか開催できなかった中学生体験入学を、今年度は7月と11月に2期に分けて開催した。2度参加してくれた生徒もいたが、多くは夏と秋では違う生徒であり、例年よりも上り多くの中学生に参加してもらうことができた。Webページは様々な情報を伝えるよう工夫した。「蒼穹通信」をWebページで配信 | 中学生体験入学については、2度の開催時期が適切であったと中学校側からの評価を得ることができた。内容も分かりやすい授業やクラブ体験が好評であった。また、ホームページは昨年以上に分かりやすく情報を発信することができた。 | ネット上では本校に関する根拠のない誤った情報(開校など)が流れることもあった。その対策としても、田川高校の魅力を効果的に伝える方法を模索していく必要がある。具体的にはホームページとオクレンジャーによる呼び分け等を今後も徹底する。公開授業に関しては現状では難しい面もあるが、感染症対策を徹底 | |
| 規範意識と自他を敬愛する心(重点目標 4) | 遅刻指導など、基本的生活習慣を構築させる指導ができたか。 | 0% | 36% | 59% | 5% | 朝SHRが1時限目より前に実施されていることから、遅刻者の把握が容易となったため、今年度から「遅刻ゼロ週間」は設けず、昇降口でのチェックも実施しなかった。 | 遅刻者はほぼ固定化されており、改善に繋がる手立てがなかなか見つからない。 | 基本的生活習慣を身につけ定着させるため、今後もより一層家庭と連携をしていく必要がある。健康観察のため朝SHRと1時限目を入れ替えて2年経つが、遅刻との相関関係について検証し、変更する必要があるかどうか、検討が必要かと思われる。 | ○生徒指導係/教育相談係/生徒会係/人権教育委員会/安全衛生委員会/いじめ不登校特別支援対策委員会/各学年 |
| | 交通安全・頭髪指導など、モラル・規範意識の向上を図る指導ができたか。 | 5% | 45% | 45% | 5% | 頭髪指導について、今年度は"年間を通しての指導"という方針により、年間6回の一斉検査日を設けたかった。交通安全について、登下校時のマナーに関する苦情あり。特に、年間を通して自転車の乗り方(無灯火)とゴミのポイ捨てに関するものが多く寄せられた。 | 頭髪指導について、全体的には指導に従う生徒が多かったが、一部、年間を通して改善されない生徒が見られた。自転車と自動車の接触事故は相変わらず多く、警察に届け出ないケースが大半である。 | 頭髪指導について、"年間を通しての指導"ということではあるが、ある程度の節目は必要かと思われる。交通安全について、職員による立ち番を、例年春に実施しているものに加えて、冬季にも実施した。 | |
| | 生徒の人権意識を高め、いじめ・暴力のない学校づくりができたか。 | 23% | 73% | 5% | 0% | 問題行動の件数は昨年度より大幅に減少した。全体的にはいじめ・暴力のない学校づくりができている。 | SNSでの誹謗中傷・からかい・生徒同士のトラブルは水面下ではかなりあると思われる。ネットでのトラブルはなかなか表面化してこないので、初期対応・指導が難しい場面が多い。 | 在学中の生徒は、「生徒によるスマホに関するルール」が定められた経緯を知らない生徒ばかりなので、あらためてより実効性のあるものにしていく必要があると思われる。コロナ禍で人とのコミュニケーションが難しい場面が多いので、改めて言語によるコミュニケーションについて再考していく必要があると思われる。 | |
| | 生徒個々の内面に寄り添って相談にのり、生徒の心身の健康を保つための支援ができたか。 | 23% | 77% | 0% | 0% | コロナ禍でコミュニケーションの場が限られ、複雑な思いを抱え込んだ生徒が増えたせいか、相談室利用者、カウンセリング実施数ともに増加した。定例の係会では各学年、保健室からの情報を共有、配慮を要する生徒を把握した。その上で、SCを含めた関係職員で対応を検討し支援に繋げた。 | SCやSSW、地域の支援担当者、医療機関などの助言を得て、適宜支援会議を持ちながら、生徒一人ひとりの状況に即した支援を行った。一方で、家庭環境に起因する相談事例が増加している。継続的な支援を行うが、改善が難しいケースも見られた。 | 担任、教科担当、クラブ顧問、保健室などでキャッチした情報を迅速に共有し合い、家庭や外部の専門機関と連携を取りながら生徒に寄り添った対応を協議、実践する。校内研修を通して教職員の専門的知識習得、相談スキル向上を図り、より一層のチーム支援体制を強化する。 | |

【〔達成度〕 A:ほぼ目標を達成した　B:どちらかといえば目標を達成した　C:どちらかといえば達成できなかった　D:達成できなかった】

※ 評価は全職員による